

## J R紀伊田辺駅前広場整備計画基本計画について

### 【内容】

なぜ、一般車両を端にするのか？

タクシーと一般車両の駅への発着量を調べての計画か？

私は以前 田辺より和歌山市へ通勤していたが帰宅時に駅に車を止めて、待つスペースがなくて困っていたので今回の整備計画に期待していた。田辺市民は、タクシーの使用頻度よりマイカーの方が頻度が多いはず。市民第一の計画でないと意味がない。観光客は、タクシーが東の端でも乗りに行くと思う。また、歩道スペースも無意味に広すぎる。

利害のある各関係機関の意見を聞くより 市民の意見を聞いてください。

### 【回答】

J R紀伊田辺駅前広場整備基本計画の中で、最も大きな課題としては「ピーク時の一般送迎車両への対応」と「駅前広場内への公共交通機関の配置」だと考えております。このため、平成 20 年度に田辺市中心市街地活性化基本計画が国より認定されるなか、夏場のピーク時を基本として交通量調査を行い、各時間帯に何度も現地調査を重ね、J R、バス、タクシー会社等との公共交通機関とのヒアリング調査も進めながら、本年 2 月には各関係機関より広く意見を頂戴する場として「J R紀伊田辺駅前広場整備計画検討委員会」を組織し、まちづくり・観光・町内会協議会・商店街組合・タクシーバス会社・一般通勤者代表（一般市民の方）・学生利用者代表（紀南 6 高校 P T A 連合会）・市議会・県・警察等の各委員の皆様により、議論を尽くしていただき、それらの多くのご意見を参考に、市としての基本計画をまとめ、平成 23 年 10 月 26 日開催の「田辺市中心市街地活性化協議会」において承認を得て、基本計画を策定しました。

計画の概要ですが、公共交通（路線バス・高速バス・タクシー）と一般車を適正に分離させるために、駅正面にタクシー乗車場 2 台分、路線バスの乗降場を運行方面別に 3 台分、広場東側に自家用車の一時駐車場（身体障害者スペースを含んで 11 台分）を配置しております。高速バス乗降場については広場南側（明光ビル前）に 2 台分を、小型バス等の待機場を自家用車一時駐車場の隣接に 1 台分配置しております。また、広場西側（山中ビル前）に歩道を切り込んだ形状で、自家用車及びタクシーの降車専用場 3 台分を配置しております。障害者用乗降場については、駅正面向かって左手に 2 台分を、なるべく駅に近く配置した計画となっています。

駅前広場内のスムーズな交通処理の観点から、広場内全体を周回する交通計画を考えており、このことにより現在の弁慶像の前後にスペースができ、この場所はビジターセンター建設予定地の正面でもあり、観光イベント等、多目的な活用を想定し、弁慶像を東側に移設し、多目的広場としての整備を考えております。

また、新聞記事においては紹介されていませんでしたが、歩行空間の快適性の観点から、

歩道上にシェルターの設置を計画しております。自家用車・タクシー降車専用場、路線バス乗降場、自家用車一時駐車場などから雨に濡れることなく駅への歩行が可能となります。

ご意見をいただきました一般車両につきましては、先述のように、広場内全体を周回する交通により、その内側の交通島エリアに一般車両の待機場や駐車場を配置することは、利用者にとって交通安全上、非常に危険で好ましくないと考えています。そのため、お送りする方を降ろされる時の短時間停車は広場西側での降車専用場を、お迎えで待たれる場合は広場東側の一時駐車場あるいは駅前派出所裏の駅前第二駐車場をご利用いただくことで、広場内車道のスムーズな通行を確保する計画です。これら二つの駐車場は30分間無料でご利用いただける計画を考えており、駅前交差点に電光掲示板を設置して、第一、第二駐車場の空車情報等の案内も考えております。併せて、今回、30分間無料利用を考えている駅前第二駐車場の利便性の向上を目的に、隣接するJRパーキングとの合体利用を計画しており、送迎時に三栖口方面からの利用も可能となるよう、取り組んでいるところでもあります。

また、歩道につきましては、歩行者や車椅子等利用の方々が快適に通行できるように、特に信号待ちが必要となる山中ビル前と明光田辺ビル西側の箇所は歩道空間を広く計画しています。山中ビル前の歩道を広くとることで、広場内車道の幅員が現状より意図的に狭くすることとなり、無秩序な駐停車ができないようになります。

限られたスペースでの駅前広場整備計画であり、全体的な利便性・快適性の向上に向け総合的な観点からの整備を進めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

(担当：計画課)